

具体物に気付いて指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすることの指導 ～転がる動きや音の出る模型教材を使った事例～			
学部・教科	小学部・算数科	事例コード	2 2 1 5
学習グループの実態	<ul style="list-style-type: none"> 小学部1学年（3名） 生活全般において常時支援を必要としており、経管栄養、人工呼吸器の使用や吸引を必要とする児童などがある。 外界の知覚認知において、ゆっくりと動くものを目で追ったり、教師が支援すれば物を持ったりすることができる。 		
単元(題材)名	『ころころ ころん』		
学習指導要領の内容	算数科／小学部1段階 A数量の基礎 ア 具体物に関わる数学的活動 (ア) ㉞㉟、(イ) ㉟		
単元(題材)の目標	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	具体物に気付いて指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすることができる。【Aア(ア) ㉞】 目の前で隠されたものを探したり、身近にあるものや人の名を聞いて指を差したりすることができる。【Aア(ア) ㉟】	対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、諸感覚を協応させながら捉えることができる。【Aア(イ) ㉟】	数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする。【小学部1段階A目標ウ】
単元(題材)の計画	1 転がる卵を目で追う。 2 転がった卵を手のひらにのせる。 3 レールに乗った卵（鈴入り）を、レールを動かして音を鳴らす。 ※1、2、3を週2回、1時間の授業の中で行う。		
指導の実際	<ul style="list-style-type: none"> 白色の卵が、よく見えるように、背景を黒にし、見えやすい距離を確認しながら行った。 20センチに近づけて追視ができる児童や、50センチ以上離しても追視できる児童など様々ではあるが、教師がゆっくり動かす卵を、それぞれ目で追っている様子があった。 レールに卵を乗せ、傾けることで、卵が転がるという仕組みが分かると、自分から手を伸ばして、レールを上下に動かして、楽しむ様子も見られた。 レールに乗せた卵は、動きが速く、追視するのが難しい児童もいたため、卵の中に鈴を入れ、音を頼りに、見ることができるようにした。 卵が動くたびに音が鳴るため、音も頼りにしながら、卵を追いかけて見ようとしている様子があった。 		



卵の模型を提示している場面



卵を転がすレール